

話題提供 4：安直哉

「コミュニケーション教育と国語教育 - イギリスの場合 - 」

安 岐阜大学の安と申します。よろしくお願ひいたします。私は、「コミュニケーション教育と国語教育」という題をいただきました。イギリスの場合ということですが、連合王国のうち、イングランドとウェールズだけに限定させていただきます。そのイングランドとウェールズでは、公営学校に対して全国共通教育課程、日本でいう学習指導要領のようなものがありまして、その実施が義務づけられています。現行版 1995 年版の全国共通国語科教育課程は大きく「話すことと聴くこと」「読むこと」「書くこと」の 3 領域から成っております。このうちの「話すことと聴くこと」の内容について、コミュニケーション教育の部分を中心に検討していこうと思います。

イギリスの話し言葉教育の隆盛

イギリスで話しことば教育が盛んになるのは、1960 年代半ばです。具体的に言いますと、ウィルキンソン (Wilkinson, A.) という人の業績が大きいのです。ウィルキンソンは学校におけるスピーチ場面の体系を次のように示しています。まず、「(A)自発的スピーチ」、これは自分の文章やことばによるスピーチです。その中で「()ディスカッション」「()口頭作文」これは特定の話題をクラスの中で発表するというものです。「()パネルディスカッション」「()役割演技 (ロールプレイング)」「()ちょっとした思いつき」これは授業中に小さなゲーム活動を入れたりするものです。その「(A)自発的スピーチ」に対して、「(B)解釈」というものがあります。これは、他人の書いた文章を表現するというものです。具体的には「()音読」であったり、「()詩と演劇」であったりします。「(C)聴くこと」、最後に「(D)音声国語を中心とした活動」、これは音声国語中心のトピックによる単元的学習のことです。

コミュニケーション教育

ところで、今回いただいた題には、たまたま偶然ではありますが、私が以前から常々考えていたことと重なる部分があります。それは「コミュニケーション」という問題です。コミュニケーションということばが随分いろいろな場面で使われており、国語教育の方でもコミュニケーションと国語教育ということが最近非常に言われるようになりました。しかし、そのコミュニケーションとは国語教育の方ではどういう意味で使われているのかがはっきり分からないところがありまして、そこら辺から入っていこうと思っております。

『オックスフォード英語辞典 (OED)』でコミュニケーションの項を調べてみますと、資料 1 のように書いてあります。読みあげるのは省略しますが、日本では、コミュニケーションという狭い意味では互いのコミュニケーションを図るというように、双方のやり取りと捉えることが多く、その意味では OED の項目の 4 の辺りを考えているのかと思います。しかし、イギリスの国語教育を考えた場合、1 ~ 4 の全体、特に 2 にあるような、かなり一方向的な伝達といえますが、そういうものもコミュニケーションに入れて

いるのではないかと思います。音読までもコミュニケーションに含めて考えるのがイギリスの国語教育の一つの考え方となります。

次にイギリスの全国共通教育課程の中で、コミュニケーションを見ていきます。まず、教育課程全体の構成を説明していきます。イギリスの場合は義務教育が5歳～16歳で、日本より下が1年、上が1年計2年長いこととなります。そして、初等・中等教育は第1教育段階から第4教育段階までの段階に分かれています。第1教育段階が初等教育前期、第2教育段階が初等教育後期、第3・第4教育段階が、それぞれ中等教育前期・後期となります。このように、日本のように学年ごとに教育課程が分かれておりませんで、数学年をまとめて記述するという構成になります。この中から、特徴的な活動を多少説明していきます。それぞれの教育段階の内部は1、2、3と分かれています。1が「活動範囲」、2が「基軸技能」、3が「標準語と言語学習」という構成で学習プログラムができあがっています。3の「標準語と言語学習」とは、多少コミュニケーションから離れた活動であって、その他は基本的にコミュニケーション活動を通して教育を展開していると捉えることができます。この3の「標準語と言語学習」についてもコミュニケーションを円滑にする目的のために、標準語の学習をしていくという背景になるかと思えます。

1「活動範囲」の中に「即興劇」「役割演技」「台本がある劇」とありますが、このようにイギリスの場合、演劇でもってことばを学んでいくという色彩が強いわけです。纏まらなくなりましたが、時間となりましたので以上で終了いたします。

高木 どうもありがとうございました。以上、話題提供を4人の先生方からいただきました。もう一度繰り返しますが「算数の授業におけるコミュニケーション活動の観察から」を寺井さんに御報告いただきました。それから、教科書における国語の場合の漢字提出、他教科における漢字提出の状況等につきまして棚橋さんから御報告いただきました。また、オーストリアにおける言語教育、特に話すことの教育とその合科的な扱い等に関する事で上谷さんから御報告いただきました。安さんからは、イギリスのコミュニケーション教育について御報告いただきました。私の個人的な感想ですけれども、午前の部とかなり重なるような問題も多いかと思えますので、そういうことも踏まえまして、また皆さんから後で御議論いただきたいと思えますが、御発表等につきまして、続きましてコメントをいただける先生方をお願いしてまいりますので、順番にコメントをお願いしたいと思います。それでは、山田さん、よろしく願いいたします。

資料1 「コミュニケーション(communication)」の定義 『オックスフォード英語辞典』より

- 1 . コミュニケートしたり告げたりする行為。
- 2 . (スピーチ、文書、符号などで) 思想や知識や情報などを告げたり、伝達したり、交換すること。電子技術や機械技術などの手段による情報伝達科学。
- 3 . コミュニケートされたことや、コミュニケーションされた事実。一つの情報。観察結果を含んだ報告書。
- 4 . スピーチや会話や会議での相互のやりとり。
- 5 . a . 精神的交流、個人的交流。
b . 性交
- 6 . a . 2人以上の人や場面のアクセス及びアクセス手段。有る場所から別の場所に進む行動や能力。(二つの場所や人や空間の間の) 通行。
b . コミュニケートするための手段。伝達経路。通信手段。通行や進入への接続法。つまり、コミュニケーションへの入り口。
c . コミュニケーションの道筋。
(7以下は省略)

(Prepared by Simpson,J.A. and Winwer,E.S.C. [1989] The Oxford English Dictionary Second Edition Volume · Oxford : Clarendon Press.p.578)

